

News Release

2015年4月10日

NTTインターコミュニケーション・センター [ICC] 常設展「オープン・スペース 2015」展の開催について

- NTT東日本が運営する文化施設NTTインターコミュニケーション・センター^{※1}(以下ICC)では、常設展示内容を大幅に入れ替え、2015年5月23日(土)より「オープン・スペース 2015」展を開催します(入場無料)。
- メディア・アート^{※2}の代表作や新作、歴史的な作品、また教育機関による研究成果としての作品などが展示され、作品を楽しむだけでなく、その背景にある現代の多様化したメディアやコミュニケーションの在り方などについて考えるきっかけとなることをめざしています。

※ 1 日本の電話事業 100 周年記念事業として、また NTT の文化・社会貢献活動の一環として、1991 年からプレ活動を開始し、1997 年東京(新宿区西新宿<初台>)にメディア・アートの展示を中心としてオープンした文化施設。

※ 2 コンピュータをはじめとするさまざまな先端メディア・テクノロジーを使用したアート作品を総称する言葉。

1. 「オープン・スペース 2015」展について

(1) 開催期間:2015年5月23日(土)~2016年3月6日(日) 午前11時~午後6時

休館日:毎週月曜日(祝日の場合翌火曜日、但し9月22日は開館)、年末年始(12月28日~1月4日)、ビル保守点検日(8月2日/2月14日)

※諸事情により開館時間の変更および休館の可能性がございます。最新情報はホームページなどでお知らせします。

(2) 入場料:無料

(3) 主な作品

①メディア・アート展示

国内外のアーティストによるさまざまな作品を紹介します。

<展示作品例>

ビル・フォンタナ 《ハーモニック・ブリッジ》 2006



ロンドンのミレニアム・ブリッジの構造内部で生じる無数のノイズをあらわにするサウンド・インスタレーションです。橋自体を巨大な弦楽器のようにとらえ、橋の構造の各部位に取り付けた振動センサーのネットワークによって音を取り出します。通行者や風など、橋をとりまく環境によって生じる振動により、常に変化し続ける音楽的な構成が作り出されま

スズキユウリ 《ガーデン・オブ・ルッソロ》 2013



自分の声が逆さに再生されたり、自分の話す声が音楽のようになっていたり、観客の声や周囲の音が、この装置を介して異なる音に変換されます。5種類の装置があり、観客の働きかけにさまざまに反応し、身体的なコミュニケーションが楽しめます。20世紀初頭のイタリアに興った前衛芸術運動、未来派のアーティスト、ルイジ・ルッソロの騒音楽器「イントナルモーリ」を模しています。

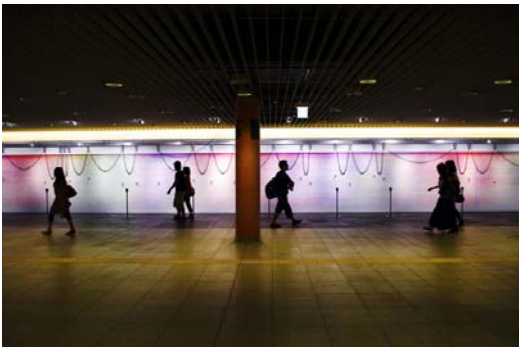
高谷史郎 《Toposcan / Ireland 2013》 2013



撮影：藤澤卓也

カメラの向きを左右に振って撮影された風景の映像が、撮影時のカメラの進行と同期して、8面のディスプレイ内の端から端をゆっくりと往復しています。映像の表示位置が移動するごとに、映像の最後端が画面内に1ピクセル列ずつ定着していくため、映像がディスプレイの端まで移動したときに現われるパノラマ状の静止画は、1ピクセル列ごとに異なる瞬間がとらえられた、カメラが移動した時間の軌跡ともいえるものになります。(東京都写真美術館蔵)

菅野創十やんツー 《セミセンスレス・ドローイング・モジュールズ#3(SDM3)-ポートレート》2015(新作)



《セミセンスレス・ドローイング・モジュールズ(SDM)》

2014年(参考図版)

札幌国際芸術祭2014(2014)展示風景

撮影：真砂雅喜

2011年よりコラボレーションを続ける菅野とやんツーは、これまでに、自動で駆動し物理法則にもとづく即興的な描画を行なう装置など、さまざまなドローイング装置を制作してきました。本展では、新作としてそのコンセプトをアップデートした、作家自身の肖像を描画する装置を展示します。観客などの展示室内の状況も取り込みながら、会期を通じて線画の制作が進行します。

Filament(Sachiko M、大友良英) 新作 (無響室展示)



Filament(Sachiko M、大友良英)

大友良英(エレクトロニクス)と Sachiko M(サインウェイブ)によって1997年に結成されたFilamentは、聴取と発音行為の徹底的な分析と解体をへて、従来の「作曲」や「即興」によって作られた音楽とは根本的に異なる音響体験をもたらします。本展では無響室^{※3}のための新作を発表します。

※3 残響が非常に少ない特別な部屋。

そのほかの出品アーティスト

岩井俊雄／セミトランスペアレント・デザイン／グレゴリー・バーサミアン／平川紀道／藤幡正樹／クリス・ミルク&アーロン・コブリン／和田永

②研究開発コーナー

大学などの研究機関における研究成果や事例を紹介するコーナーです。

技術者や教育現場から発想される未来像を提示するとともに、最先端技術の共同研究発表の場としても展開していきます。

<展示作品例>

情報科学芸術大学院大学[IAMAS] 車輪の再発明プロジェクト



城一裕《断片化された音楽》2014年

このプロジェクトでは、メディア考古学を足がかりに、ありえたかもしれない「今」をつくりだします。例えば、レコードやプロジェクトを再発明し、さまざまな活用の下地となる技法として示すことで、音楽や映像をはじめとした表現のあり方そのものの再定義を試みます。本展では、それらの技法を具体的な作品とともに紹介します。会期中にシンポジウムの開催と数回の展示替えを予定しています。

③新進アーティスト紹介コーナー「エマージェンシーズ！」

今後期待される新進アーティストやクリエイターの最新作品やプロジェクトなどを紹介するコーナーです。
(年間3回展示予定)

エマージェンシーズ！ 025 AKI INOMATA 展示期間:5月23日(土)~8月1日(土)

エマージェンシーズ！ 026 田中健司 展示期間:9月8日(火)~11月15日(日)

エマージェンシーズ！ 027 大和田俊 展示期間:12月22日(火)~2016年3月6日(日)

④その他の展示・施設

ICC活動に関する映像アーカイブ「HIVE」(ハイヴ)のコンピュータ端末閲覧により、ICCの歴史に多面的に触れることができます。

⑤関連イベント

出品アーティストによるレクチャーやトーク・イベントを開催するほか、毎月第三日曜日には、学芸スタッフによる作品解説ツアーを行なう予定です。

2. 今後の展示予定

(1) ICC キッズ・プログラム 2015 (仮称)

開催期間(予定):2015年7月18日(土)~2015年8月30日(日)

最新のメディア・アートに触れることで子どもたちの好奇心と想像力を育むことを目的に、2006年より開催している夏休みの子ども向け展覧会です。

(2) 企画展 「ジョン・ウッド&ポール・ハリソン展」(仮称)

開催期間(予定):2015年11月21日(土)~2016年2月21日(日)

ジョン・ウッド&ポール・ハリソンは、英国を拠点に活動し、1993年より、彫刻、パフォーマンス、建築など

の要素を取り入れたビデオ作品を共同で制作しています。シンプルなアイデアから生み出される、ユーモラスで意外性や示唆に富んだ作品によって展覧します。

開催日程、内容については、後日ICCホームページ(<http://www.ntticc.or.jp/>)にてお知らせします。

3. ICCのご案内

所在地：東京都新宿区西新宿 3-20-2 東京オペラシティタワー 4階
(京王新線 初台駅東口から徒歩2分)

